港区立高松中学校　学校だより〈第９号〉
令和６年２月１６日　校長　中山　幸子

たかまつの森

創立１９４９年（昭和２４年）　〈高松中生のあたりまえ〉推進校　港区高輪１−１６−２５

「たら」、「れば」を語るより・・・

先週の２月９日（金）は２学年の都内巡りでした。

スタートしてしばらくした午前中に上野公園周辺を歩いていましたが、すぐには本校の２年生とは会えず、他校の班行動をしている生徒たちをよく見かけました。そのようなときに、上野合格大佛ののぼり旗を見付け職業柄なのか反射的に体が動きました。「３年生が全員合格し、有意義な残りの中学生活をおくれますように」と参拝しました。

よく、勝負ごとや願いごとが叶わなかった場合、『あのとき～し**たら**　～してい**れば**』と思ったり『あの人と～ではなかっ**たら**　〇〇さんと～でなけ**れば**』と誰かのせいにしたい感情が浮かんできたりした経験はないでしょうか。受験に限らず、目標に向かってできる限りの努力をして実力を出し切る経験をしたら、その先には『**たら、れば**』という後悔の気持ちは出にくいのではないかと思います。

偉そうにここで伝えている私も実は「たら、れば」は、たくさん頭に浮かんでは消えを繰り返しています。時間を遡って中学生の自分にアドバイスするなら、「自分の可能性を信じて強気で物事にあたれ！」と言うでしょう。そして、もっと追加できるなら「同じ後悔なら、やらないより、やってみての後悔がいいよ。その分、先に進めるし見えてくるものがあるから」と続けます。なぜなら、中学生の私はすぐに諦める生徒だったからです。

「人生に、たら・ればはない」と言います。これまでの自分が選択した結果が、今だからです。

強気で物事にあたった中山さんは、その後どのような大人になったのか想像がつきませんが、高松中学校で生徒の皆さんと、教職員の皆さん、保護者・地域、関係機関の皆さんと出会えた今に感謝できることを幸せに思います。

巣立っていく３年生の皆さん、どうか残りの中学校生活を３年間の総仕上げとして充実した時間をすごしてください。２、３年生の皆さん、１年後、２年後と思わず、将来の自分のためになる捉え方や考え方、それらを行動にうつすにはどうしたらいいのか、戦略的な視点をもって取り組んでください。

どんなときも皆さんを支えていきます。